

ASIAN LIBRARY CAFÉ: 002

古典籍 on flickr !

～漢籍・法帖を写真サイトでオープンしてみると～

によせて

一般財団法人人文情報学研究所

永崎研宣

U-PARL におけるアジア古典籍の高精細画像を、Flickr を一次公開サイトとして活用する例は、筆者の知る限りでは公的機関としては比較的珍しい部類に入るように思われる。しかしながら、予算と人材が逼迫する国立大学の現状にあつては、研究資料を共有するための一つの有効な手段であるように思われる。私企業の無料配信サービスを利用することについての是非の議論は、たとえ有料であったとしても様々なリスクが存在する上に、無料配信サービスがビジネスモデルとして成立している限り、無料配信サービスの利用はそれ自体が商行為の一環ともなり得ることであり、実質的には有料サービスの利用との違いは、無料であることによるユーザビリティの制約の問題を除けば見つけることはそれほど容易ではないかもしれない。さらに言えば、有料サービスにおいても、Flickr のユーザビリティに遠く及ばないものも少なくないことに鑑みるなら、U-PARL における今回の公開手法は、今後広く浸透していく可能性を秘めているとも言えるだろう。さらに、この公開手法に加えて、

「低コスト、最小構成、長期運用」という軸の下、

「蔵書画像の外部ストレージとして flickr を利用しつつも、メタデータの検索と IIF 画像との連携のために Omeka を活用する」

とのことである。このことについては、可能性は感じられるものの、以下の点についてどのように検討されたのか、いつか機会があればおうかがいしたく、また、今回の会場の方々とも議論していただけると幸いである。

- ・長期運用というテーマにおける Flickr というサービスの持続性。特に URL・URI の持続性はどうか。

- ・Omeka の導入のコストについての検証。Omeka は人文学者でも導入できることを目指して開発されたシステムであり実際に導入は極めて容易だが、それを業務として担当可能な人材の確保が低コストであるかどうかの検討も必要だろう。あるいは、そういった人材を定常的に確保できる体制が実現可能であれば比較的 low コストであるとも言える。

- ・メタデータ検索の際の検索対象となる項目や検索手法についての、一人、あるいは一つの分野だけではない、可能な限り多様な想定ユーザを交えた検討

なお、こうした点にもかかわらず、オープンなライセンスの下で資料を公開したことは、後の様々な可能性を開いたという点で高く評価されるべきだと考える。その点については、今後も継続していただけると幸甚である。

デジタルアーカイブの評価に関するガイドライン（案）

我国におけるデジタルアーカイブの評価には未だ定まったものがなく、評価の方針すら十分に共有されていない。それゆえ、かかったコストに対する便益を確認することができず、結果として、デジタルアーカイブへの取組みがうまく展開されないという状況になっている面がある。かかる状況を解決すべく、ここでは、デジタルアーカイブの評価に関するガイドラインを提案する。

デジタルアーカイブの評価には、その主体や目的、利用者に応じて様々な観点があり得ることから、共通の数値目標といったものを定めることは適切ではない。したがって、ここで提示するガイドラインは、数値目標やその他の指標を定めるに至るための基礎となる考え方であると理解されたい。

1. デジタルアーカイブによってもたらされる機会や課題に対してどのように対応しているのか。
 - 1.1 デジタルアーカイブでなければできないことをどれくらい実施しているか
 - 1.2 上記以外にデジタルアーカイブのメリットをどのように活かしているか
 - 1.3 デジタルアーカイブがもたらす問題点についてどう対処しているか。

2. 採用や昇進、その他審査の対象としてデジタルアーカイブの成果に評価を与えることをどのように計画しているか。
 - 2.1 デジタルアーカイブの構築に関わることについての評価基準はどうか
 - 2.2 デジタルアーカイブの運営に関わることについての評価基準はどうか
 - 2.3 デジタルアーカイブの改良に関わることについての評価基準はどうか
 - 2.4 デジタルアーカイブの利活用に関わることについての評価基準はどうか

3. 自らのデジタルアーカイブを普及させ、維持し、そして保存するという点についてどのような計画を持っているか。
 - 2.1 デジタルアーカイブの普及のための計画はどうか
 - 2.2 デジタルアーカイブを維持するための計画はどうか
 - 2.3 デジタルアーカイブを保存するための計画はどうか
 - 2.4 特に、こうした活動を職掌に含むポストを用意しているかどうか

4. 自らのデジタルアーカイブの目標を達成するためのデジタル技術・規格と、その仕事に担当部門がかかる各種コストについて、適切に説明できているかどうか。
 - 4.1 採用したデジタル技術・規格の目標に対しての適切さはどうか
 - 4.2 かかっているコストの目標に対しての適切さはどうか